

かわらばん

第56号 2024年6月12日



「大吉原展」を観て、問われたこと……角田由紀子
「家族介護への押し返し」などあってはならない～介護保険報酬改定から見えるもの～……坂元良江
投稿 原発稼働、もうひとつの危惧……鈴木忠夫
投稿 ドラマ「虎に翼」に寄せて 軍事国家化を阻止するために……林 克行
投稿 ドラマ「虎に翼」に寄せて 上川陽子発言、はて？……中村洋子
袴田再審公判傍聴記 続報 直径二センチのバッジが危険物？……三井富美代
BOOK『国策紙芝居からみる日本の戦争』……丹羽雅代
短信：一票で変える女たちの会FBから

*記事中の URL、一部の写真は、出典サイトとリンクされています。クリックするとリンク先が開きます。

「大吉原展」を観て、問われたこと

角田由紀子



二〇二四年二月初めにある広告で「大吉原展」を知った。これはぜひ見ておかねばとチケットをすぐに予約した。当初この展覧会は「江戸アメイジング」との副題が付されていた。主催者の当初の認識を表している。とてもポジティブな姿勢であり、吉原すべてを肯定しているかのように読める。まるでテーマパークであるかのような扱いという批判もあった。主催者は、東京芸術大学、東京新聞、テレビ朝日である。その関係で東京新聞には期間中広告と共に批判を含む記事がたびたび掲載された。ある種、論争的でもあったので、ぜひ見なければと焦ったが、上野まででかける往復の時間と全部を見るには二時間はかかりそう。一日仕事の予感がした。ある日、決心して会議をさぼって上野に行った。混んでいるとの報道

もあったので、早くに上野について、開館までの時間を三〇分以上並んで待った。最近、とみに足腰難ありの私にはここからが難行苦行の始まりだった。杖を持参して正解だったと密かに思った。二時間ではとても丁寧に見るといふわけにはいかなかったが、私の体力の限界であった。本邦公開の浮世絵の名品も海外からお里帰りして多数公開されていた。こんなにたくさん本物の浮世絵を見たのは初めてであった。当時の吉原の町の再現のような形での展示であったから、「なるほど」と感じ入った場面もあった。美人画の洪水を浴びているような具合であった。喜多川歌麿の当時の人気画家たちの本物の作品は美しいものであったのは本当だ。この機会を逃したらもう二度とこういうことはあるまいと思

ながら、肉体的には疲れた。そのため、終わりに近づくと雑な見方になってしまった。

三階部分に展開されていた当時の街並みの遊郭群の再現はどんな部屋で客をとっていたのが分かるものであった。まるで長屋のように並んだ部屋でずらりとセックスが行われている光景を想像させられた。遊郭はそういう場所だからその想像にたじろぐことはない



大吉原展ホームページ <https://daiyoshiwara2024.jp>

とはいえ、リアルさにちよつと圧倒された。

遊女の存在の上で成り立っていた「文化」

一番印象に残っているのは一八七二（明治五）年に制作された洋画家高橋由一による「花魁」であった。これはとても有名な作品で私は別の展覧会（東京博物館での着物の歴史のような展示）でも見ていた。「花魁」は最上位の遊女のことである。そのことが髪型や着物に忠実に表現されている。

制作された一八七二年は、マリ・ア・ルス号事件（*）とその結果の芸娼妓解放令の出された年である。当時の新聞報道によれば、解放令により遊女の姿が変わり草創期から伝わる結髪が廃れるのを惜しんでの制作とのことだ。モデルは、当時全盛であった稲本楼の四代小稲である。制作理由からして洋画の人物像の技術が発揮されているもの。出来上がった作品を見て小稲は、私はこんな（不美人？）

顔じゃありませんと泣いて訴えたという逸話が残っている。実際には、小稲は細面できりつとした現代にも通用する女性として描かれている。私は苦勞を重ねて生きた美しい女性という印象を持った。小稲本人は歌麿らのいわゆる美人画を見て自分もあのような女性と思い描いていたのであろう。高橋作品と浮世絵の美人画の落差に彼女は落胆して抗議の意味を込めて泣いたのかもしれない。

（「大吉原展は」失われた『別世』である吉原文化の記録を皆さんにお伝えし、今まで『日本文化』として扱われてこなかった江戸文化を、改めて共有する試みなのである。それは権力と文化の関係を考えることになり、権威というものを相対化することになると思う」（田中優子、同展学術顧問、図録）

田中さんが本展で強調しているもう一つの点は、これが女性の人權侵害であった事実を直視すべきということだ。二度と表れてはならないということだ。この趣旨は展示の始まる場所に主催者挨拶の一部として掲載されていた。もつ

とも、途中での展示替えの時に入館者の目につきにくいところへ移されていたという。

この「文化」は遊女の存在の上で成り立っていたことは今まで指摘されてこなかったことだから、強調してもし過ぎることはない。歌麿の美人画のモデルは奴隷の遊女だと誰が想像したのだろうか。遊女たちは年季が明けるまでは吉原から出ることはできなかつたし、脱出できないように周囲は堀で囲まれていた。最高位の花魁であっても借金返済が終わらねば出ることはできない。どんなに豪勢な着物と髪飾りで飾られていても「自由」は皆無で仕事の中心は客とのセックスであった。マリ・ア・ルス号事件で遊女たちは奴隷だとの指摘がされたのはその通りであったので、政府は解放令を出すしかなかったのである。ご存じのように「解放」は言葉の上でのごまかしで、性を売る女性の「自由営業」の嘘は今日まで続いている。

吉原に集約された公娼制度は一九五七年の売春防止法施行まで

続いた。同法の管理売春規定が公娼禁止をうたうものである。

突き刺さる吉原からの問い

展示を見ながら現在の性売買の実態を改めて思い起こさせられた。江戸文化の基盤から現代の「風俗」まで、性売買はしぶとく生き残ってきた。それは買う側の巨大な需要の放置と買うことへの法的規制の緩さによつていゝる。その異常さを際立たせるために吉原のようによく見える形の特区を作るのは廃止への一歩としてありうるか？ 江戸の男たちのように現代の買う男もそこへ大手を振つてでかけるのだろうか。「風俗」へは大手を振つて出かけているので今さら特別の効力はないかもしれないが……。

見終わつて改めて「文化」とは何かを考えた。因みに広辞苑では次のように解説されている。「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ科学・技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治などの生活形成の様式

と内容を含む」

性奴隷の存在なしに成立しえないものであつても文化は文化なのだろう。ギリシャ文化も奴隷と共存していた。文化に関連して思ふのは、遊女たちの中には男性文化人に引けを取らない教養を身に着けた人たちがいた事実だ。ここで称賛されている「教養」は男性たちのそれであり、遊女でありながら、そこまで到達できたということだ。それは彼女たちを幸せにしたのだろうか。客の文化人たちからは称賛されたとしても彼女たち自身はどうだったのだろうか。

男中心社会で男中心の学問や教養を身に着け、そのことで一定程度承認されてきた私は幸せだったのか。主観的には社会の権力を持つ人たち（男）の仲間に入れてもらつたと満足していたはずだ。二流市民であるという自覚はないのか。その時の満足とは何だったのか。満足の基準も男性が作つていた社会で女が生きてるとはどういうことなのだろうか。吉原から問ひは私自身に突き刺さる。

(六月五日)

*一八七二年、横浜港に停泊していたペルー船籍のマリア・ルス号から奴隷状態にあつた清国人苦力が逃亡、イギリス軍艦に救助を求めた。イギリスはマリア・ルス号を「奴隷運搬船」と認めて日本政府に清国人たちの救助を要請。それを受けて日本政府は清国人救出の法手続きを開始、国際裁判を経て清国人苦力二三人が解放された。この裁判でペルー側のイギリス人弁護士

「家族介護への押し返し」などあつてはならない

「介護保険報酬改定から見えるもの」

坂元良江



が、日本にも奴隷がいるではないか、遊女たちは奴隷ではないかと指摘。明治政府はそれを事実と認め、「芸娼妓解放令」を出すに至つた。

二〇二四年四月介護保険報酬の改定で「訪問介護」「夜間訪問介護」「定期巡回」の報酬が下げられた。「ヘルパー不足が深刻な中で、報酬は上がることはあつても下がることがあるはずがないと思つていた」と関係者たちは驚いている。

計算によると訪問介護のヘルパー一日二〇〇〇円、月五万円もの減収になるそうだ。事業所はそれでもヘルパーをある程度の条件で雇用しなければならぬ。手厚い介護などますます望めなくなるのだら

う。経営困難で倒産する事業所も出てくるだろうとのことだ。介護保険制度成立時から関心を持ち続けてきた社会学者の上野千鶴子さんは「これは、家族による介護への押し返しです」と断言する。

介護保険制度は二四年前、将来団塊の世代の人たちが高齢になり介護が必要になつた時を見越して作られた制度と言われる。今ちようどその時期が来ている。団塊世代の高齢化で起こる様々な事態は「二〇二五年問題」といわれてい

る。その時期にあわせたような改訂は制度の成立の意味を否定すると言っても言い過ぎではない。

かつて高齢者介護は妻や娘や息子の嫁の「仕事」だった。長野県に住む女友だちが数年前に亡くなった。彼女は兼業農家の主婦で夫はウィークデイは県内のほかの地方で働き帰って来ない。田畑を守り、二人の子どもを育て、舅、姑、独身の小姑を看取った頃には息子たちは成人したが都会に暮らし帰ってこない。定年後自宅に戻った夫との二人暮らしになったところで、病を得て静かに逝ってしまった。彼女のような女の一生は私の世代では珍しくない。

介護保険制度ができて間がない頃、介護状態になった母が私と同居することになった。母は要介護認定を受けてヘルパーの訪問介護を受けていた。その頃のヘルパーは元家政婦紹介所に登録した家政婦さんだった年配の人も多く、制度の趣旨などは全く理解していなかった。彼女は私を「お母さまがこんな状態なのに娘さんが働きに

行くなどとんでもないです」と説教した。私は事業所の責任者を呼び、介護保険の何たるかを伝え意識の改善を求めた。

子どもが生まれた時にも「お母さんが仕事を辞めて育てるのが一番ですよ、ご主人の収入で暮らせるではないですか」と役所から言われ、共同保育所を作って子どもを預け、仕事は辞めなかった。親の介護でまた同じことを言われた。「家に帰れ」の声を押しつけてきた人生だったな、とつくづく思う。

今八六歳の私より一〇歳年下の団塊の世代の女性たちは「家族帝国主義からの解放」と女の犠牲によって成り立つ家長制、家族制度に異議を唱えた。私自身も男の役割、女の役割を否定し「家族解体を試み続けて」（雑誌『思想の科学』一九七九年三月号）などと原稿を書き、家族を否定してきた。介護保険はそういった思想の延長線上にできた制度だと私は理解してきた。

私の子育ての頃とは比べるべくもないほど保育園の数が増え、男

性の育児休暇取得も広がり始めている。介護保険制度が成熟し、介護が家族のものではなく社会のものになっていくことに大きな期待を抱いてきた。私自身が将来介護状態になった時「お子さんに看ていただいたらどうですか」などとは言わせない。今さら「家族による介護への押し返し」など絶対に

あつてはならない。

介護保険はそのほかに、民間なら保険詐欺ともいえる、自己負担の一〇%から二〇%への引き上げが決まり、公的サービスに加えて民間のサービスの利用を勧める案など改悪が次々と出てくる。注視していかなければならない。

(五月三一日)

投稿

原発稼働、もうひとつの危惧

鈴木忠夫

東日本大震災で被災した福島原発、地震から一三年過ぎた現在、炉心溶融、放射能汚染、汚染水処理、住民避難などの問題を何一つ完全に解決出来ないのに、岸田政権は原発再稼働を推し進めています。私たちは原発の危険性を訴えて原発再稼働反対の大きな声をあげなければなりません。

ロベルト・ユンクというドイツのジャーナリストは四七年前に

『原子力帝国』という著書を著わし、被災とは全く別な角度からも原発の危険性を警告しています。

ユンクは原子力産業が盛んになると必然的に核燃料が必要となるが、その安全管理の対策として警察などによる監視、規制が強められていく。しかしこの原子力施設の警備強化だけに留まらず、原子力施設の周辺地域や燃料を運搬する沿道、それらの地域に住む人々一人ひとりについて、当局は

詳細な情報を入手しようとする。

突発事故が起きた時、原子力施設や核物質運搬を襲撃するテロリストや、ストライキ参加者をつきとめられるからである。こうした活動が恒常的になると相互不信に陥り、人々は「破壊分子」と見なされるのを恐れて他人との会話を忌避し口を閉ざすようになる。国家は市民の生命を守るため核施設の管理を強化しようとする、市民を監視する行為も必然的に強化せざるをえなくなる。核テロリストの脅威を重大に考えるならば、国家は警察国家に変貌せざるをえない。というようなことを書いています。

私たちはそのような国家になることを恐れます。原発稼働のもう一つの危惧として考えなければいけない問題です。原発を進める自公政権に断固反対しましょう。

(五月一八日)

投稿 ドラマ「虎に翼」に寄せて

軍事国家化を阻止するために

林 克行

『虎に翼』の寅子のモデルになった三淵嘉子の義父で、初代最高裁判長官になった三淵忠彦、彼に関する本をかつて編集したことがあり、毎朝、楽しみにして観ています。メインテーマは、もちろん根深い日本の女性差別ですが、私は、不当にも官憲に付け狙われ、帰国せざるを得なかった朝鮮人の優秀な兄妹に思いを馳せました。

かねてより、毎年、マスメディアでは8・15の辺りで、戦争回顧の番組が作られますが、ほとんどは、「朝鮮や満州からの帰国や大空襲、原爆などで、いかに酷い目に遇ったか」で、「そこで、いかに酷いことをしたか」は、めつたに報道されないことに、私は大変訝しく思っていました。日本の近代化は、攘夷、攘夷と騒いだ連中が、政権を取るや「脱亜入欧」「富

国強兵」に走り、欧州の列強と軍事同盟を結び、アジアの朝鮮や中国を侮り、植民地化しようとし、挙句の果て、世界大戦にまで突き進み、アジアに大きな惨禍をもたらした歴史でした。

それにもかかわらず、中国・朝鮮にはいまだに正式の謝罪をしようとしません。のみならず、「南京大虐殺、従軍慰安婦なんてなかった」「関東大震災時の朝鮮人虐殺は、正当防衛だった」などの捏造史観が横行しています。戦後七十数年、日中太平洋戦争の記憶や伝承がかなり薄れたころ、中国や朝鮮の人たちを逆なでし、憤慨させるこうした史観がでてくるのは、いまだに彼らを蔑視しているからにほかなりません。私達は、いかなる近代を歩んできたかをしつかり認識し、いま何を考え何

をすべきかを考えなければなりません。そうでないと、こうした捏造史観に騙されてしまいます。

「一つの中国、中国と台湾は二つの自治区」は、アメリカも容認したはずなのに、いま岸田政権はアメリカに尻を叩かれて、台湾をめぐる中国と戦火を交える体制づくりを急ピッチで進めています。私は、中国・韓国・北朝鮮にしっかりと謝罪し、東アジアの一つの国家の人間として、友好的な東アジア圏を構築するために、少しでもできることをしていきたいと考えています。それには、まず、自公政権にノーを突き付け、軍事国家化を阻止するために努力することだと思っています。

(五月一五日)



投稿 ドラマ「虎に翼」に寄せて

上川陽子発言、はて？

中村洋子

上川陽子氏は、五月一八日静岡県知事選挙応援演説で「私たち女性がうまずして何が女性でしょうか」と発言した件が話題になっている。彼女は、後日発言を撤回したそうだが、取り消せば済む問題ではない。そもそも産むという行為と女性を直接結びつけて発言すること自体が、女性蔑視で偏見であり配慮が足りないと言わざるを得ない。日本でジェンダー平等が進まない根源がここにあることが明白になった。彼女の発言は、女性性は産むのが当然であるという低次元な発想で極めて差別的であり、政治家としては失格である。産む産まないは、女性が決めることで、他人が決めることでも国から言われて決めることでもない。この演説を聞いていた女性たちから拍手が起こつたらしいが、この拍手も問題だ。支援者としては当

然の反応かもしれないが、このような差別的思想は擁護できないと女性たちが自覚するべきである。「虎に翼」の主人公である猪爪寅子がこの演説を聞いたら「はて？」と疑問を呈したに違いない。あの時代から一〇〇年近く経っているのに、いまだにこのような低レベルで短絡的な発言しかできないのは対外的にも恥ずべきことであり甚だ情けない。ましてや海外の要人と交流する機会が多い外務大臣なら尚更である。まともな政治家なら時代の先駆者として発言し行動するべきであろう。全女性、いや全国民のリーダーとして、性別にかかわらず誰もが尊重され平等で平和な社会を築くことを常に意識するべきであると同時に、希望が持てる社会を目指す責務がある。

自民党の中では、上川氏が次期

総理大臣候補に上がっているらしいが、このような偏見をもつた人物が日本のリーダーになることは極めて危険であり絶対に避けなければならない。そのためにも政権交代を実現しなければならないと切に思う。

(五月二二日)

袴田再審公判傍聴記 続報

直径二センチのバッジが危険物？

三井富美代

本紙五五号に、静岡地裁における袴田事件の再審公判で異常にきびしい傍聴規制が敷かれたという記事を掲載しました(角田由紀子「誰も知らない恐ろしい話」)。法廷への持ち込みは貴重品と筆記用具のみ、持病の咳を抑えるのど飴やペットボトルの水すら「法廷では飲食禁止だから」と拒否され、傍聴席最前列では警務官二人が両端に座って傍聴席を監視していた……など。



続く第一四回公判(五月二二日)では、姉の袴田ひで子さんら傍聴人や弁護士が胸に付けていたバッジを外すよう要請されたと報道が伝えました。東京新聞静岡版によると、バッジは「袴田さん支援クラブ」の会員証で、二〜三ミリの文字で「HAKAMATA SUPPORTERS CLUB」と記されている直径二センチのもの。ほかに背中側に「FREE HAKAMADA」の文字があるパーカを着ていた人について、職員が「HAKAMADA」の上にテープを貼って文字を隠したとのこと。これらのものは、第一回公判以来この時までは何ら問題にされていなかったそうです。

憲法は裁判は公開が原則とう



東京新聞（静岡版）5月12日

たっています。ただ、最高裁が定めた規則に裁判所傍聴規則というものがあり「傍聴人の被服又は所持品を検査させ、危険物その他法廷において所持するのを相当でないと思料する物の持込みを禁じさせること」「相当な衣服を着用しない者及び法廷において裁判所又は裁判官の職務の執行を妨げ又は不当の行状をすることを疑うに足りる顕著な事情が認められる者の入廷を禁ずること」とされています。小さなバッジや衣服に書かれたアルファベットがなぜ「相当で

ない」のか、ぜひ説明して欲しいものです。こうした例はほかでも見聞きします。安保法制の違憲性を問う法廷で「NO WAR」と書かれたTシャツを着た傍聴希望者が入廷を禁止されたり、LGBTQに関する法廷でレインボーカラーのソックスまで隠すよう要請されたりと、なぜこうしたチマチマした規制が増えてきたのでしょうか。

傍聴に関して四月には、横浜市教育委員会が、「二〇一九年から今年四月にかけて、横浜地裁での学童への教員によるわいせつ事件の公判で職員を多数動員して傍聴に行かせ、一般の人が傍聴できないようにしていた」と発表し謝罪しました。四件の事件について公判のたびに動員された人数は昨年一二月以降だけでも三七一人。出張扱いで旅費を支給する場合もあったといえます。毎回傍聴に入れないこと

に違和感を持った東京新聞記者が調査し発覚しました。さすがに各メディアも後追い報道、産経新聞も社説で「教育機関にあるまじき、耳を疑うような不祥事」（五月二三日）と書いています。

朝ドラの「虎に翼」で、でっちあげられた贈収賄事件の判決の日、裁判官の一人が「正義は出世してからいくらでも」と暗に圧力をかけられ、傍聴席から睨まれたつも毅然と公明正大な判断を下す、というエピソードがありました。太平洋戦争が近づく中で実際にあった政財界を巻き込んだ疑獄事件をモデルとして、この番組のテーマの一つでもある「法と正義」を語る場面です。

その「法と正義」を歪めるような事態が裁判所で相次ぐいま、巷間言われる「新しい戦前」がまさに始まっている、私たちがボーツとしているうちに取り返しのつかないことになっているのではと背筋が寒くなる思いがします。

（六月一日）

『一票で変える女たちの会』かわらばん
★印刷版をご希望の方は左記FAX、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎！

本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見なんでもお寄せください。

宛先

Email: 1pyodekaeru@gmail.com
郵便: 〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1の1

東京ボランティア・市民活動センター

1階 メールボックスNo. 45

FAX: 03-5684-1412

HP: <https://1pyo-de-kaeru.com>

★カンパのお願い

私たちの活動に賛同する皆さん、ぜひカンパを！

郵便振替口座:

記号番号 00110-6-420003

口座名称 一票で変える女たちの会

イッピョウデカエルオンナタチノカイ

銀行等から振り込む場合:

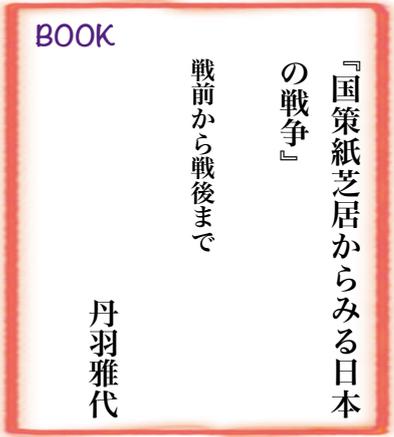
店名(店番) 〇一九(ゼロイチキョウ)

店 (019)

預金種目 当座

口座番号 0420003





『国策紙芝居からみる日本の戦争』

戦前から戦後まで

丹羽雅代

ある講演会で、興味深い本を見つけた。題して『国策紙芝居からみる日本の戦争』。

早速手に取ったけれど、歯が立たない。A4サイズで五〇〇ページ近い。貸してくれるというので借りたものの、リュックに詰めるのも大変、開くのも大変。だから最初の二〇〇ページ余りにぎっしり紹介されている実際の紙芝居の紹介を見るのが精いっぱい。

この本に掲載されている国策紙芝居は神奈川県立日本常民文化研究所非文字資料研究センター所蔵で、敗戦直前の焼却処分命令をかくぐつて処分されないできたものという。一九三六年から四五七年あたりまでのもの。全部で

二四〇点に上る。

もう一カ所、こどもの文化研究所にも多数の戦中戦後の紙芝居があるらしい。ここは一九四七年に文部省によつて作られた場で現在は財団法人となつており、こども文化の大事な柱としての紙芝居を育てる活動も、現在に至るまで継続されているようだ。小学校で教員が休みの時の代理など、本の読み聞かせよりも手軽で集中してもらえないかもしれない。

紙芝居にまつわる私の思い出は苦い。おやつは、父が運営していた工場の職人さんたちの分と一緒に母が準備するので、駄菓子子どもが買いに行くのは禁止。だから紙芝居はこそつと後ろから立ち見するしかない。なんとも居心地が悪かつたのでほんの時たまのぞくくらい。でもあつという間にテレビが普及し、紙芝居やさんの自転車姿も見えなくなった。紙芝居の全盛期は二度あつたそう。この本が扱う昭和初期から敗戦までと、敗戦後から高度経済成長が始まるまで。

一九三〇年代ころは人物伝もいろいろあつた。

しかし戦前の紙芝居を紹介するこの本の一番最初に出てくるのが矢島楯子伝というのにびっくり。

伝道を目的に、聖書物語シリーズやイエス伝と一緒に日本人信仰英雄物語シリーズの一つとして出されたという。彼女が夫の暴力による離婚の後、江戸に向かう船中で、「舵」を誤らないことが大事と自ら改名したことや、のちに女学校教員となつて受洗したこと、聖書献上で皇后に接触したこと、一九〇八年にキリスト教矯風会世界大会に出席のため渡米し、のちに日本キリスト教婦人矯風会を作つたこと、日露戦争の時は矯風会で七万個の慰問袋を戦地に送つたことなども淡々と描かれている。小さい子どもが対象でないことは明らか。

戦争が拡大していく中で、圧倒的に多かつたのが子どもたちの戦意高揚をめざすものだ。

「銃後の力」「大政翼賛」「滅私奉公」「チョコレートと兵隊」「あ

アあの赤い夕陽」「臣民の道」「すすめ一億火の玉父さん」「大建設」「英東洋艦隊全滅す」「防諜戦士」「マレーの虎」「軍神岩佐中佐」「ソロモン海戦」「空飛ぶ御盾」「神風の飯沼正明」「ガダルカナル島決戦記」「空の軍神加藤少将」「敵国降服」「南海の防人」……タイトルを見るだけで内容が浮かぶ。

また、戦時を意識させる暮らしの態度がテーマのものもいろいろある。

「スパイご用心」「フクちゃんとおチョコキン」「貯金爺さん」「仲良し貯金」「神様の配給」「初陣」「ヘイタイゴッコ」「産業報国」……「我は海の子」には、そもそも黒船来航から欧米は日本を狙ってきたのだという歴史観が出てくる。海軍省の検閲済みとある。当然子どもや親が戦争の担い手となつて戦争に行くことが期待される結末。

画になりやすいのが母モノ。これも相当に多い。

「戦士の母」「母の手」「軍神の母」「炭焼く妻」「頼山陽の母」「闘ふ母」「海の母」「母の翼」「母は泣かず」……戦時を支える女役割がどのよ

BOOK

うなものか、しつかり伝える。
伝記ものも多いが、内容は必ずしも子ども向けとは言えない。

「風流蜀山人」「芭蕉」「二宮金次郎」「本居宣長」「野口英世」「上杉鷹山公」「高山彦九郎」「兵制の父大村益次郎」「新田義貞」「一茶」「小村壽太郎」「間宮林蔵」「楠公父子」……という場所で見せられたものだろう。青年団の集まり？ 常会はかくあれというのものもあるから、人が集まる前段などでも活用されたのか。紙芝居という特性を生かした使われ方がいろいろあつたようだ。喜ばれたかどうかはともかく。

女性は最初にあげた矢島楯子、伝記のキュリー夫人以外は、母しか見当たらない。

あとは昔話。「縛られ地蔵」「金太郎サン角力の巻」「桃太郎」「牛若丸」「カミサマトシロウサギ」「花サカヂヂイ」などなど。「欲張り爺さん」は影絵風で、なかなか面白い。昭和浦島なんているのもあつた。

高名な画家が制作したものもかなりあつたようで、絵としても面

白いものもある。

敗戦直後のものも数点。戦争から戻ってきた元兵士が、町で談笑する人々や米兵を見て驚いたり、機雷に触れて死にそうになったり、でも漁師という仕事をめざしていこうと決意する話が、「新生」というタイトルで描かれている。

国策紙芝居は、一〇〇〇点ほどあつたようだ。朝鮮半島や台湾にも多数が残っており、それぞれ研究対象となつてきているとのこと。健全娯楽という触れ込みの紙芝居が、大人たちからは敬遠されていったということも興味深い。

ぜひゆつくり実物を見にいっく機会を作りたい。

(六月二日)



非文字資料研究叢書『国策紙芝居からみる日本の戦争』神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター「戦時下日本の大衆メディア」研究班編、勉誠出版、2018

左頁は「母の翼」、右頁は「ビルマ少年と戦車」



★読者のみなさまへ★

一票で変える女たちの会では、「かわらばん」発行のお知らせや投稿募集、憲法集会などの情報を不定期に配信専用のメーリングリスト (ML: 1votewoman@mio-minmio.sakura.ne.jp) でお届けしています。

しかし、最近このMLが届かないという方が増えてきました。多くの場合、迷惑メールとして処理されてしまうようです。お手数ですが、迷惑メールボックスなどをチェックして、受信箱に戻すか、「迷惑メールではない」をクリックしていただきたく、お願いいたします。

また、会からのMLが不要の方、アドレスの変更や新たな登録を希望される方は、1pyodekaeru@gmail.com までお知らせ下さいますよう、お願いいたします。





短信

一票で変える女たちの会 フェイスブックから

会のFBから抜粋して情報を掲載します。詳しい内容はそれぞれのサイトをご覧ください。太字の見出しまたは写真をクリックするとリンク先に移動します。移動しないとき、印刷版の場合は、見出しなどで検索してください。日付はFB投稿日。新聞等の掲載日は投稿日と異なる場合のみ、見出しの後に記載。

6月8日

6・9国際シンポジウム参加呼びかけ

「人権侵害が横行する日本の入管行政を変えよう国際シンポジウム」

問い合わせ info@nisminengo.org



6月5日

仁藤夢乃さんのFBから

やる気のなさしか感じない都の答弁。

少女たちを妨害から守らず、CoLaboを歌舞伎町から追い出して、悪化を続ける少女性搾取の現状に対して、都のコメント……

都の担当者

「都の中の関係部署や、その他、警察など関係機関と、何ができるかを協議しながら対応していきたい」

Q 具体的にはどんなことに取り組んでいく？

都の担当者



「近々には思い当たるものはないが、関係する部門は複数あり、どうい課題があるかを注視しながらやっていきたい」

6月2日

「夜逃げ屋」社長は元DV被害者

増え続ける依頼に感じるやるせなさ

朝日新聞デジタル 6月1日有料記事

配偶者からの暴力(DV)やストーカー被害などに苦しむ人の「夜逃げ」を専門に手がける引越し屋が

ある。社長も元DV被害者で、約10人いるスタッフも、ほとんどがかつての依頼者だ。なぜ、日本社会に「夜逃げ屋」が必要とされるのか……

5月下旬、都内の取材場所に現れた社長は、ジーンズにスニーカーのモラハラ(精神的DV)に苦しみ、夜逃げを決意した女性の荷出し作業を終えたばかりだという……



……

6月1日

子ども食堂で自衛隊が募集広報 防衛事務次官通達に抵触か 週刊金曜日オンライン

自衛隊が昨秋、札幌市内の子ども食堂約80カ所に、中学生以上の就職勧誘を打診し、実際に約10カ所を訪れ採用案内を配布した。中学生への募集は保護者または学校の進路指導担



……

当者を通じて行なうと定めた防衛事務次官通達に違反する疑いがある。

「×××(子ども食堂の名前)さまへはじめまして、こんにちは。自衛隊札幌地方協力本部、広報官の■■■■(氏名)と申します。日頃から子ども食堂の活動お疲れさまですm(_)_m ……」

6月1日

想田和弘さんのFBから

「緊急事態」には政府が農家などに増産や転作を指示できるとする「食料供給困難事態対策法」が衆院で可決したそうです。知りませんでした。農家の権利を侵害する、全体主義的な、署名を立ち上げた農家の方の文章をぜひとも読んでください。こんな身勝手な強権的な法律を通しちゃった

ら、ますます農家のなり手は減ると思いますよ。やる事が無茶苦茶です。岸田政権、本当にひどいことばかりする。署名しました。



……

Change.org

このキャンペーンに賛同しませんか？ 食料供給困難事態対策法案の廃案を求めます

5月29日

有料記事ですが…動画のメッセージ「こんにちは／小説を書くハン・ガンです／私の長編小説『別れを告げない』の日本語版が刊行されました／この小説はこの上ない愛についての小説で／海の下でろうそくを灯す話で／一羽の鳥を救おうと吹雪を突き抜けていく話です／良い出会いとなってくれたらうれいのです／ありがとうございます」といっています



暴力に満ちた世界で、希望を想像する 問い続ける作家ハン・ガンさん 朝日新聞デジタル

5月29日

都庁舎の壁面にプロジェクトアクションマップの投影。新年度(2024年度)は9億5000万円の予算で行うという。この下では、毎週土曜午後、NPO法人「自立生活サポートセンター・

もやい」などの行う食品配布に長蛇の列ができる。生活や医療の相談も行なっている。華やかな光のショーは観光資源というが、その利益は困窮する人々の生活に届いているのか。足元の暗さとの落差にめまいを覚える。

輝く都庁の下、食求め700人 困窮者増える一方、華やかイベントに違和感—毎日新聞

…：昨年の生活保護の申請件数はここ10年あまりで最多を記録…：東京都庁(新宿区)の真下のスペースで毎週土曜、生活困窮者向けに無料で食料が配布されている…：2020年4月に始めた。約100人だった

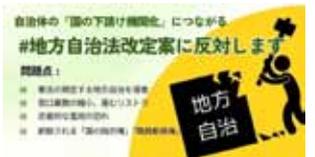


利用者は増え続け、23年5月の新型コロナの5類移行後も700人近くで高止まりしているという…

5月29日

自治体の「国の下請け機関化」につながる #地方自治法改正案に反対

署名アクション Change.org



5月15日

国会議員とNGOの街頭リレーア

女性の権利を国際基準に これでいいの？ 日本のジェンダー不平等 主催…女性差別撤廃条約実現アクション、他



5月13日

中村哲さん遺志継ぐNGO支援アファニスタンに新たな用水路完成 NHK

干ばつの被害が続くアフガニスタンでは、2019年に銃撃されて亡く

なった中村哲さんの遺志を受け継ぐNGOの支援で、かんがいのための新たな用水路が完成し、現地の人々の生活の改善が期待されています。アフガニスタンでは、長年支援活動を続けてきた医師の中村哲さんが2019年に銃撃されて死亡しまし



たが、中村さんが現地代表を務めた福岡市のNGO「ペシャワール会」は遺志を受け継いで支援活動を続けています…

4月30日

仁藤夢乃さんのFBから

Colaboへのあまりにも酷い攻撃—長い文章ですがぜひ読んでください。

一年前、東京都がColaboに対する深刻な妨害に屈して、23年度から補助を受けた場合少女たちの個人情報報告を都に提出しなければならなくなつた。



行政への情報開示請求を用いた嫌がらせも続き、少女たちの情報を加害者に渡した自治体もあり、開示された書面はネットに拡散されたり販売されたりしている……先日、この団体の創設者のインタビューとして、こんな記事が出た。

「日本駆け込み寺・青母連の玄秀盛氏が明かすコラボ代表・仁藤夢乃さんの学生時代からの豹変ぶり」
https://bunkaonline.jp/archives/4845#google_vignette
アクセス数を増やすのは嫌だが、とてもわかりやすい記事なので、ぜひ読んで欲しい。

私はこの記事に書かれている新宿区の自殺対策委員会に参加したことも、この男に学生時代に会ったこともないし、会計不正がなかった

ことは監査結果でも明らかなのに、Colaboについて「不正は本当にあった」などとデマを流している……